



社会福祉法人 蓮花苑

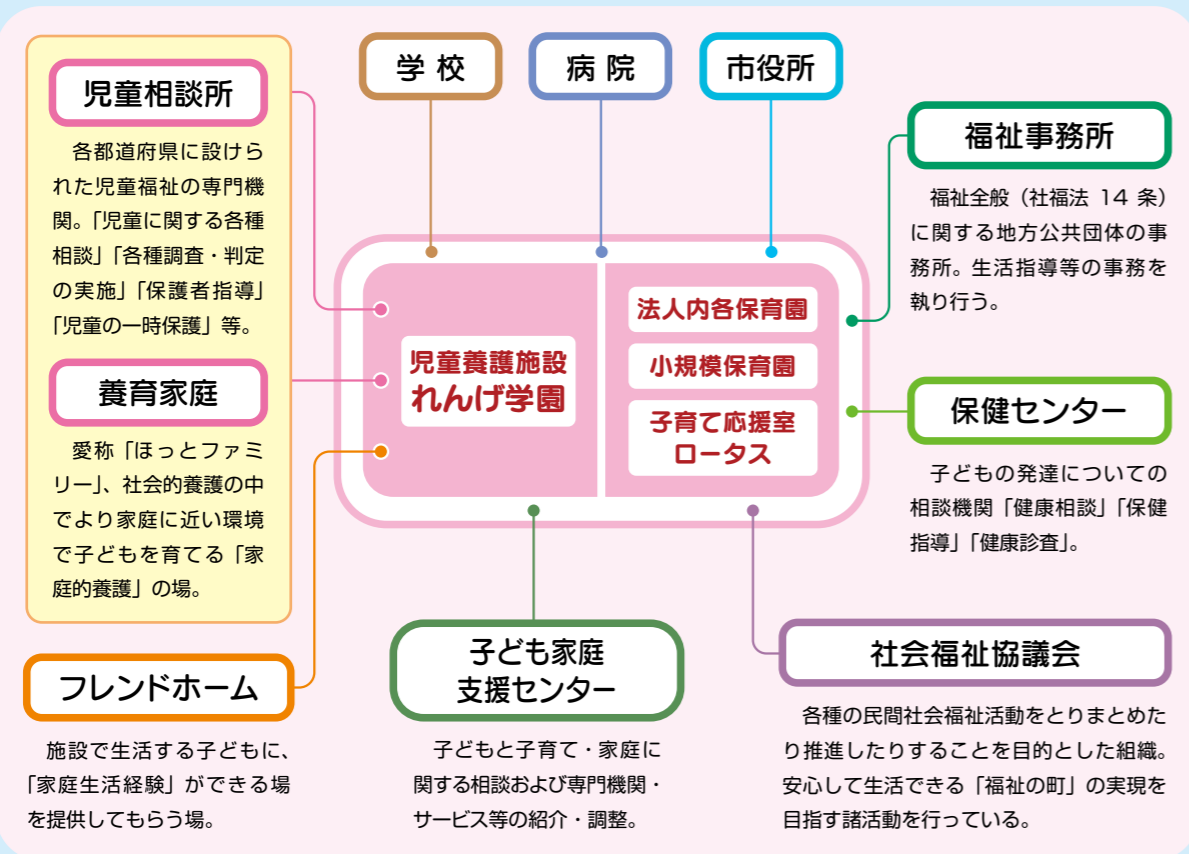
れんげだより



法人理念
報恩感謝

目次	他機関との連携	1
	光はどこにも	2
	理念を読み解く	3
	新しい光にむかって	5
	親子のつながり	5
	明日がキラキラ輝く保育	7
	保健	9
	給食	10
	ほっこりエピソード	11
	令和3年度会計報告	13
	後援会員及び寄付者ご芳名	14

他機関との連携



光はどこにも

社会福祉法人 蓮花苑 理事長 佐々木晶堂

令和5年度を迎えるにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

令和2年から始まり4年(4回)連続の形となつてしまい、誠に不本意ではありますが、今回も又「れんげだより」の冒頭に新型コロナ・ウイルス(COVID-19)の感染状況に関する話題から始めさせて頂く事になりました。思えば令和2年1月の最初の衝撃から3年間余しか経過していませんが、次から次へと起こる感染状況の変化の大きさと速さにほんの短い時間であつたと感ずる事もあれば、様々な制約を受ける日常生活の不便さや停滞した経済活動からくる困窮さから永遠とも思える程の長い時間であつたと感ずる事もあるかも知れません。はっきりと認識されているだけでも第八波にまでわたって繰り返された感染拡大の波のゆくえも定かでない中で、我が国政府は3月13日からのマスク着用の要請停止や5月8日からの感染症の分類を第2類から第5類に引き下げる措置等の行動制限の緩和に向かって動き出しています。確かにワクチンによる予防効果はある程度確認されているようですが、新たな治療薬の開発も続いているようではあります。また絶対的な対処法が確立されている訳ではない現状では行動制限の撤廃に一気に突き進んで行くのはどうなのでしょう。他者から強制されるのではなく、個人個人が自らの強い意識で日常生活の中での些細な事であっても手指の消毒やうがいや忘れぬ等の予防行為を継続して行く事が必要ではないかと考えます。つまり、コロナ禍前の社会生活に戻るのではなく、コロナ禍が存在する事を前提としてのこれと共存・共生する新しい社会生活を営んで行く事が、克服できなくても上手に付き合っていく意識を維持して行く事が、肝要なのではないでしょうか。

又、令和4年の改正児童福祉法や令和5年4月に創設される子ども家庭庁に加えて、首相が「異次元の少子化対策」を打ち出すなど、子ども・子育てに関する国の制度や施策は大きな変化の真只中にあります。私達児童福祉に携わる者は、たとえ変化の中であるが為に体制が未完ではあつてもその状況・環境下で出来る最大限の努力をしていく必要があるでしょう。当法人も社会的養護と保育事業を柱として活動を行なっている立場として、かかる体制の中で子どもの最善の利益を追求し地域の子育て家庭を支援する為にやるべき事・やれる事を検討し、どんな些細な事業であっても新たな展開を図って行く覚悟であります。

最後に、昨年静岡県のある保育所で発覚して以降全国の保育所で表出してきた保育所における職員による園児に対する不適切な行為についても触れておかなければなりません。元よりたとえコロナ禍で種々の制限やストレスの多い状況下ではあつたとしても、本来子どもに携わる仕事につきたいとしてその職を選んだ保育士が子どもに対してそのような行為に及ぶという事はあつてはならない事ではありますが、逆に言えばどこでも起こり得るという認識に立つて保育業界全体で再発防止に取り組んで行く必要があります。当法人としても、これ迄も種々の研修や法人内の会議等のあらゆる機会を通してこれら不適切な行為の防止の為に意識の徹底をはかつて来ましたが、今後もストレス軽減を図る職場環境の良化も併せて意識の定着・深化をはかつて行きたいと考えます。

さて、これ迄いくつかの問題に関して私観を述べさせて頂きましたが、今回「れんげだより」に於きましては「新しい光にむかって!」をテーマに、現場で保育者達が見出した子ども達のキラキラした様子の中の光やそこから感じた自らの心の中の方向性を紹介させて頂く事で、当法人の活動に対する皆様の一層のご理解の一助となるように届けさせて頂きます。私が上述してきたいくつかの課題や困難な状況の中にも、たとえわずかであっても希望の光や新しい方向性が見い出せるものと確信しております。



理念を読み解く

家庭で当たり前に行われている「養育」を、時間や枠組みが決まった中で、それぞれ育った家庭環境も違う職員が「仕事」として行うことは、実は簡単なことではありません。

施設職員が子どもに関わる中で支援の仕方に迷ったり、職員間で意見が異なったりと、日々さまざまな葛藤があります。そんな時に立ち帰るのが理念です。

今回の『れんげだより』では、理念についてお話をさせていただきます。

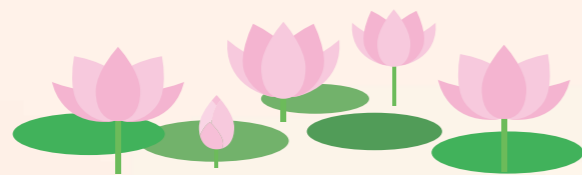
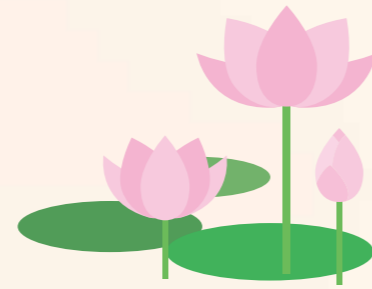
蓮花苑の法人理念は「報恩感謝」です。

「報恩感謝」とは、「私たちと私たちの生活を支えている社会や環境のあらゆる要素に目を向け、感謝をしましょう」ということです。身の回りの持ち物や食べ物も、それがどうやって手元に届いたかを考えると、感謝すべき人がいることに気づきます。食べ物やエネルギーは、自然の恵みの一部であるということにも思い至ります。さまざまな制度やしくみは、先人たちが工夫し残していったものです。そして何より、私たちを取り巻く親しい人々がいます。みんなでお互いに尊重し合っこそ、私たちは暮らしているのです。

こうしたさまざまな要素に素直に感謝を向けるためには、自分を尊重する心が大切です。ありのままの自分を知って全部受け入れ、肯定することができるからこそ、自然と感謝の念が湧いてきます。また、自分を受容し尊重するからこそ、他者を受容し、協調の大切さへと目を向けることができます。

れんげ学園は、子どもの心や人格の基礎を形づくるための場所なのです。まず心の底に「自分が生きているということ」を愛するための経験を蓄え、そしてそれが「他者を愛すること」や「世界を肯定すること」につながっていくはずです。

私たちは今日もこの法人理念を拠り所として、子どもと向き合い、研鑽に励んでいます。そして、『れんげだより』を毎年発行し、皆様のお手元に届けているということも、れんげ学園にとっての「報恩感謝」の実践のひとつです。



ヒノトントン
ZOOで
恐竜と一緒に！



芋掘り、楽しかったね！



昭和記念公園へ！



新しい光にむかって！

子ども達は今年もさまざまな
経験をしました！



火を起こすのが
難しいBBQ！



女の子たちに人気の
サンリオピューロランド！



自然の中で、ゆったり
リラックス～



いつでも美味しくて
楽しいまわるお寿司！



子どもたちに願うこと

れんげ砂川保育園 武田 里奈

これからの未来、子どもたちが大人になったとき、どんな時代だろうと想像すると、今と同じようにさまざまな困難が待ち受けているだろうと想像してしまいます。

私は昨年出産をして1歳6ヶ月の女の子を育てています。妊娠、出産時はまさにコロナ禍で、行動自粛などが厳しいときでした。かからないように外出は控え、出産後も会う人は限定し、人が多いところには行かないようにしていましたが、ネットを使えば子育てに必要な物や情報はすぐに手に入りました。そして、保育士をして

いることもあり、情報の取捨選択に困ったことはなく、自己完結することが多かったように思います。その



ときは子育てに必死でしたが、今思うと社会や人との関わりがなかった生活をしていたと思います。現在、娘は保育園に通っています。園で学ぶこと、刺激も多く、成長に驚くことが多々あります。それは今までのように過ごしては見られなかった姿だと思いました。

冒頭の話に戻り、これからの子どもたちはどうなっていくのだろうと考えたときに、人とのつながり、関わりはなくてはならないものだと思いました。娘にはたくさんの人と関わり、素敵な人に囲まれ、困難な状況に出会ったとしても生きていく力をつけていってほしいと思っています。私は保育士なので、受け持っている子どもたちにもそのように育ってほしいという願いがあります。保育園という場でしかできない経験、育ちの種を植えてあげ、それが将来何かのきっかけで花開き、生きていくうえで助けになればと思います。



「育児は育自」現在進行中

れんげ南街保育園 橋本 由紀子

私が母親1年生になった頃、近所に子どもが生まれると、近所の先輩方が次々と訪問しては悩み始める前にたくさんのアドバイスをいただき、公園デビューをする

とすぐに遊びきていた子どもたちからの声掛けで自然に異年齢児との関わりも経験してきました。やがてコロナとともに始まった令和、公園には人がいなくなり、近所の先輩方の井戸端会議も見かけなくなりました。核家族化も加速し現代の子育て環境は、情報量は豊かになりましたが、人の温もりや優しさは希薄になった気がしてなりません。

春には桜を、秋には落ち葉を使って子どもと一緒に



玩具作りをした思い出がありません。いつも自分たちが生活している環境のなかでの子どもとのふれ合いは、子

ども目線で新たな発見があり喜びを共有でき、笑顔へとつながります。毎日無理をして一緒に遊ぶ時間を作るより、子どもが欲したとき、時間に余裕があるときに、子どもと同じ目線で童心に帰る楽しむ経験は親と子を育て、その心を満たし幸せな空間を作ってくれるはずで

す。私がいちばん大切にしてきたのは笑顔。母親の笑顔は子どもの笑顔になり、家族の笑顔になります。心配事を相談するのは恥ずかしいことではありません。両親の心と体の健康こそが、子どもの幸せでありよりよい環境となります。未来を担う子どもたちが希望をもって明るく生きていけますように。育児は育自、まだまだ進行中。新しい光にむかって。



親子のつながりについて

れんげ上北台保育園 鍋島 淑暢

親子のつながりと聞いて思ったことは、子どもたちが育つうえでとても大事なものなんだろうということ。自分自身は親の立場でもあり、両親ともに健在なため子どもの立場でもある。子どもの立場から見ると、親とつながっているということは、安心感がある。きっと何かあったら助けてくれる。最後は味方でいてくれるであろうという安心感だ。

親の立場からはどうだろう。親として、子どもはずっとつながり守ってあげたい存在である。しかし、だからといってずっとつなぎ留めておくのではなく、子自身のみずからの足で歩き始められるように見守り、後押しをしてあげる必要がある。つなぎ留めていたいけど離してあげなくてはいけないものだ。

保育士の立場から見ても、親子がつながっていることはとても大切だ。安心感のある子どもたちは、情緒も安

定し伸び伸びと生活ができ、探求心を持ち過ごすことができていると感じる。では、親子のつながりは強いほどよいのかというと、そうではないと感じることも多い。親の気持ちが強いほど支配的になり、子の気持ちが強いほど依存性になっていく。過ぎたるは猶及ばざるが如し。強く強烈につながっているよりも、ちょうどよくさりげなくつながっていることが大事なのかもしれないですね。



「ハグ」の効果

れんげ萩山保育園 飯島 愛

日々の生活のなかで何気なく行っている息子とのぎゅー♡(ハグ)。朝目覚めてきておはようのハグ。行ってきますのハグ。ただいまのハグ。おやすみなさいのハグ。大丈夫だよのハグ。大好きだよのハグ。このスキンシップの時間は、私たち親子の心を癒してくれています。

息子が1歳の頃、保育園へ連れて行こうとすると泣いてなかなか出発できず、思うように離れることができない日が続きました。同時に母親の私も育児と仕事の両立ができず、余裕のない慌ただしい日々を過ごしてい



ました。余裕のなさや心の声は子どもに伝わり反省する日々。それを変えたのは考え方の変化でした。何でも「しっかりやらなきゃ」と理想や完璧を求めず、「まあいいか」と考えることで気持ちに余裕ができ、自然と息子との時間が増え、抱きしめてあげられる時間も増えていき、「ハグ」の効果を感じました。保育園の送迎時に必ずハグをすることで、心と体が温かくなり、安心して「行ってきます」「バイバイ」と笑顔で見送ってくれるようになりました。我が子の笑顔で元気百倍！心も体も健康にしてくれるのはスキンシップのおかげでした。

今年度は「つながり」がテーマのれんげ萩山保育園。保育園でもスキンシップの時間を大切にしようと改めて思いました。



キラキラな毎日と一緒に

れんげ桜が丘保育園 畠山 祐里奈

朝、「おはよう」と元気よくニコニコで登園してくる子もいれば、大泣きで登園してくる子など、毎日さまざまです。

乳児クラスの担任をさせていただけることが多いので、抱っこで部屋に入り、しばらくして保護者の姿が見えなくなると、ケロツとして玩具のほうへ遊びに行く子もいれば、玩具も遊ぶのもおやつもすべてがいやと泣き続けてしまっている子など、本当に毎日さまざまです。

どうしたら笑顔で楽しい気持ちに切り替わってくれるのかな、と日々考えながら保育をしています。なかなか

笑顔のスイッチが見つからないときもあります。ふとしたきっかけで笑ってくれることも多く、音が鳴る玩具やキラキラしたもの、



部屋のなかにある飾り、外の景色、皆が大好きな歌など、こちらが驚くようなちょっとしたことで笑ってくれたりするので、こちらもつられてうれしい気持ちになり、笑顔にさせてくれます。

毎日楽しい気持ちでいてほしいな、と思っはいますが、泣いたり、怒ったりも、もちろんあります。「まあ、そんな気分のあるときもあるよね」と、気持ちを受け止めながら、子どもたちが少しでも多くニコニコの笑顔で輝いていられるよう、キラキラな毎日と一緒に楽しく過ごしていければいいなと思います。

キラキラした言葉

れんげ第二桜が丘保育園 梅川 律子

コロナウイルスの話題がない日はなく、未だにマスクをする保育が続いています。ある子が私の顔をじっと見て、「先生ってどんな顔しているの?」「お口は大きい?」と聞いてきました。子どもたちにたくさん微笑みかけてあげたいと日々感じている私には、切なく感じましたが、その子の表情はワクワクしながらどんな顔なのか創造を膨らませているようでした。そのとき、子ども



にとってマスク姿は保育者の声や表情をより感じ取り、プラスのアイテムにもなることに気づかされました。

子どもたちと過ごすなかで、「明日も一緒にダンゴムシ探そうね」「もも組になったらパラバルーンがんばるからね」「警察官になるんだ」など目を輝かせ、希望に満ちた明日につながるたくさんの言葉を聞きます。明日そして未来に向かって輝く笑顔や言葉をたくさん増やしたい、そして見て、聞いて、触れてなど、五感をたくさん使い、多くのことを感じてほしいと思い、保育をしています。また、保護者にも寄り添い、子どもたちの成長を喜び合えるよう心掛けています。

今後も子どもたちのふとした言葉にも耳を傾け共感し、たくさんのキラキラ言葉を引き出していきたく思います。



明日がキラキラ輝く保育

れんげ武蔵保育園 佐藤 直子

私たち保育者は、日々の活動において年齢の発達に則したねらいをもって保育を行っています。そのねらいのなかには、保育者の得意分野、苦手分野があり、苦手分野でも子どもたちの発達を考え行わなければいけないこともあります。そんなとき、私は子どもたちにおろす導入をどうしようか……と考え込んでしまうのです。



考えながら出勤すると、「先生おはよう」と元気な声が聞こえてきます。その笑顔を見て私はハッと、「おはよう」と答えていました。今の私は苦手なことを考え、眉間にしわが寄り難いような表情になっているに違いない。子どもたちから見ると「怒っているの先生?」と感じてしまうだろう。それでも「先生、今日楽しいこと何するの?」と話しかけてくるのです。その子どもたちの笑顔と元気な声で、私は今日も保育を楽しもう、と気持ちがスッと軽くなっていくのです。私が保育を楽しむことで子どもたちに楽しさが伝わり、活動が生き活きしていきます。その気持ちは子どもたちの心と眼差しをキラキラと輝かせます。そんな子どもたちを見て私は自然に笑顔になっている自分に気づかされます。子どもたちの笑顔と元気な言葉は私たち保育者を笑顔にし、気持ちを明るく変え、ワクワク感をかきたてるような気持ちにしてくれるのです。

自分自身がどんなときでも楽しむことを忘れずに、これからも子どもたちがキラキラ輝けるような保育をしていきたいと思っています。



キラキラ輝く瞬間

れんげ保育園 升 裕美

私は今、0歳児クラスの担任をしています。毎日変化の連続で本当に楽しい日々を過ごしています。

昨日までハイハイで移動していた子が立てるようになり、いつの間にか1歩2歩と歩けるようになって、名前を呼ぶと手を挙げて返事ができるようになったりと、毎日の成長が著しく驚きの連続です。

子どもたちと保育者との信頼関係も築かれてくると、目を合わせて笑ってくれるときには心が温かくなり癒されます。また、戸外遊びが大好きなので、「遊びに行くよ」と声を掛けるとキラキラした目で園庭に向かっていき、好きな遊びを楽しんでいます。絵本やペープサートなども好きで“つぎはなにがでてるんだらう?”と目を輝かせて見てくれます。

先日は園庭で空を指さしてきれいな飛行機雲が伸びていたのを教えてくれました。「ひこうき雲きれいだね」と声を掛けると目を輝かせて見ていました。毎日の何気ない光景でも子どもたちには新しい発見なので、小さな気づきを大切に子どもたちと過ごしていくようにしています。

また、保育者である私たちもキラキラと輝けるように日々学んでいき、子どもたちに負けなくらい元気に過ごし、光輝く瞬間を見つけたいです。

保健

子どもの生きる力をはぐくむために ～親子のつながり～

子どもたちが心身の健やかな成長をとおして、将来社会で自分の力ではばたいていけるように支援することが大人の役割です。「愛着形成」がその一つであり大切といわれています。

愛着という難しく聞こえますが、いつも自分を認めてくれて、大事にしてくれる人との信頼、安心感のことです。

コロナ禍での育児は心配事が多く、心身ともに負担が大きいものです。子どもの健やかな成長のためには親の心の健康が大切です。ストレスで心がいっぱいになったとき、考え方を考えることで元気になることがあります。



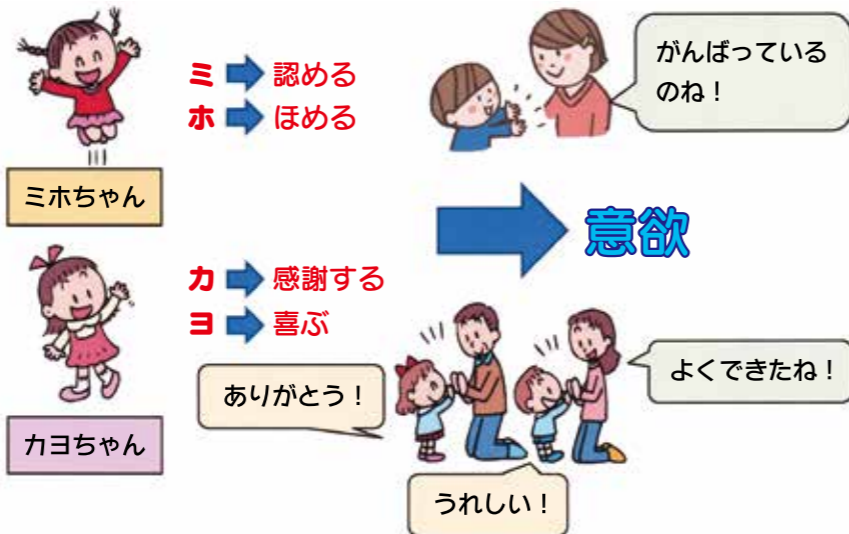
「親はこうあるべき」や「育児はこうするべき」などの思い込みを開放し、ときには自分自身をケアすることが大切です。

子どもたちは、家族と一緒に楽しい時間を過ごすことが幸せです。私たち大人は目の前に大変なことがあると、「楽しいこと」「うれしいこと」が見えにくくなりがちです。子どもは「一緒に楽しいね、うれしいね」と思い日々を過ごしています。私たち職員も楽しい日々、たくさん時間を子どもと過ごし、笑顔やちょっとした一言、かわいい仕草に元気をもらっています。私たちを元気にしてくれる子どもの笑顔の源は、周りの大人の笑顔と温かい語りかけです。子どもたちは自分が認められ、大切であると感じると安心感を得て、周りの人たちも大切であると気づくようになります。この愛着を土台に子どもは成長します。

私たち看護師は、安心、安全な保育環境の提供、日々の保健活動を行いながら、子どもたちの本来もつ力を引き出せるような温かな関係作りを目指していきます。



また、子どもの意欲を引き出す関わりとして、「ミホカヨ」の対応をお勧めします。その積み重ねが、将来の子どもの自己肯定や意欲的な生活につながっていくのです。



「わかってきている」「聴いてくれる」という実感があって、はじめて自分の深い考えを語れるものです。

給食

栄養士としての顔、 母としての背中

れんげ武蔵保育園 三神 雅代

栄養士として8年、母として3年たちました。私は専門学校卒業後、れんげ武蔵保育園に就職し、蓮花苑とともに成長してきました。そのなかで子どもが生まれ、仕事に育児にかぎられた時間のなか目まぐるしく過ごす日々、ふと思出した言葉があります。「一寸の光陰軽んずべからず」、時間ほど貴重なものはない。当時は何をいっているのだろう、そんな気持ちだったのですが、今となってはしっかりとる言葉に感じます。仕事をしているとわが子と過ごす時間が減ってしまいます。そのことで、仕事と育児の両立で葛藤した日々もありました。



そのなかで一緒に過ごす時間より質が大切、そんな言葉を聞いて、わが子と一緒に過ごす時間をさらに大切にしようという前向きな気持ちで過ごせるようになりました。

話は少し変わりますが、子どもたちの笑顔って本当に不思議な力をもっていて、疲れていても満面の笑顔で美味しかったと言ってもらえると、疲れていたことを忘れてうれしいという温かい気持ちで満たされます。そんな素敵な力をもっている子どもたちと関わることのできる日々、そしてわが子と笑顔で過ごす毎日への感謝の気持ちを忘れずに、これからも保育園の栄養士として「今日も美味しかった」そんな言葉と笑顔を増やしていけるよう、日々精進していきたいと思います。

子どもとのつながり

れんげ上北台保育園 調理師 住友 恵美子

私には18歳の長男を筆頭に16、5、3歳の娘がおり、子育て真っ最中です。

どのご家庭も高校3年間のお昼はお弁当が大半かと思えます。息子の高校3年間は、部活、バイトに忙しく、すれ違いの日々でしたが、中学生の頃から妹たちのお世話や家事など、お願いしたことは文句を言わず大抵のことはやってくれる子でした。そんななかで私がやってあげられることといえば、毎日のお弁当作りでした。

娘も今年高校生になり、お兄ちゃんの方も作ってくれるようになったので、私の出番はだいぶ減りましたが、作る時には「お母さんが作ったお弁当」を意識して、朝作ったものをバランスよく入れるよう心がけていま

す。「ごちそうさま」と同時にからっぽのお弁当箱をみるとやっぱりうれしいものですね。

息子は今年成人を迎え、お弁当も

一段落。お弁当が必要なときは愛情込めてまた作ってあげたいと思います。

そんな手のかからなかつたろうなと思う子でも、やはり子育てしていくなかで、母親として壁にぶつかることもありました。そのたびに長男長女がお世話になった保育園の先生に相談をしていたのですが、ある日、こう言われました。

「どんなときでも、子どもが小さいときは手を離してはいけない。大きくなったら手は離していいけど、目は離しちゃいけないよ」と。

そのときはその言葉に納得しているものの深くは考えませんでした。しかし、10数年たった今でも時々この言葉を思い出し、進級や進学で環境が変わったとき、家庭環境が変わったとき、ちゃんと見てあげられていたかな、ちゃんと心に寄り添えていたかなと考えるときがあります。

子どもたちのことを職場の人や友人に話すと、みんなよい子だとほめてくださいます。長男と長女が大きく成長した今、日々、下の幼い2人の妹との関わりを見ると、色々失敗もあったし、何が正解かわからないことも多いけど、協力し合い、他愛もないことで笑いあえる家族でいられることが何よりの幸せです。



ほっこり エピソード

「先生！ ぼうし みつけたよ」とドンブリの帽子を自分の頭にのせて、「ほら みて」とうれしそうに見せてくれました。

クーピーをしまおうとしていたもも組のAちゃん。ロッカーに入れようとした際にぶつかり、箱ごと床に落としてクーピーが散乱してしまいました。声をかけようとした保育者より先に「大丈夫？」とBちゃん。「一緒に拾おう」とC君。あっという間にAちゃんを助けようと周りにお友だちの輪ができ、保育者の出る幕はなく、心優しい子どもたちにほっこりしました。



冬の晴れた日に園庭で遊んでいると空を見上げているA君。「どうしたの」と尋ねると「とっても気持ちがいいね」と。保育者も子どもの気持ちに共感して空を見上げていると、飛行機が飛んできて「飛行機も気持ちよさそうだね」と時間を忘れて空を見上げる2人でした。

友だちが苦手なトマトを食べていると、その子を見て「すごいね！」とほめていました。言っていた子もその子を見て、苦手なトマトと一緒にパクッと食べ、お互いに微笑んでいてほっこり。友だちの力ってすごいなと思いました。



ずっと同じ体勢で寝ていたO君が突然、「足がシュワシュワしました」と泣きそうな顔で言ってきました。しびれてしまったようでマッサージすると治り、もう一度寝ました。

0歳児の子がお片付けのときに力強く玩具をケースのなかに投げ入れていたので、「優しく入れてくれるとうれしいなあ」と声をかけると、おもちゃ箱のなかに手を入れ玩具をこちょこちょとさわっていた。そのときの顔と手の動きがかわいらしく、皆の顔が笑顔になりました。きっと玩具にごめんねをしていたのかな！

ある朝、登園を渋っている子に会いました。「おはよう！ 今日の給食はうどんだよ〜！」と言うと、顔がパッと明るくなって、「やったあ！ うどん大好き！ 先生がんばって作ってねー！」と言われ、子どもの気持ちが切り替わったことのうれしさを感じ、今日も1日がんばるぞ！ という気持ちになりました。



食事の前の手洗いで、ペーパータオルと間違えてティッシュで拭いてしまった子が、「先生……、溶けちゃった……」とびっくりしていた姿が可愛いらしかった。



着替えが終わり、脱いでいたズボンが行方不明に。一生懸命探しても見つかりませんでした。「また後で」とトイレに行くことにしました。ズボンを脱ぐとそこには探していたズボンが、どうやら脱がず重ね着をしていました。思わずみんなて笑ってしまいました。



オムライスもスープも全部完食したOOちゃん。服をまくりほっこりてたお腹を見せ、「先生わたし女の子でしょ。だからいつかお母さんになるの。ほら今お腹に赤ちゃんがいるんだ」と言いながらお腹をなでなで……。次の日「生まれた？」と聞くと、「まだなの。でも動いているよ」とお腹をさすって幸せそうな笑顔でした。

お遊戯会の練習が終わって、保育者が「すごく上手だったね」と言うと、Aくん「先生も ほめるの すてきだったよ」

Aくん「あれ〜部屋のなかから雨が降ってきたよ」
Bくん「え〜どこから!？」「部屋のなかで雨なんて降らないよ」
その会話を聞いたCくんが一言！
Cくん「汗びっしょりだから、それほくの汗だよ」
周りの子も大笑い。平和なワンシーンでした。



令和3年度会計報告

当法人においては、社会福祉法等に則り、令和3年度における法人内全施設の会計報告を以下の通り公表いたします。これらは当法人の監事による監査を受けて、理事会及び評議員会において承認を受け、さらに公認会計士による外部監査を経て作成したものです。

貸借対照表

令和4年3月31日現在 (円)

【資産の部】		【負債の部】	
流動資産	430,942,338	流動負債	124,689,294
現金預金	321,635,279	固定負債	51,990,000
未収金	102,376,911	負債の部合計	176,679,294
前払金	6,930,148	【純資産の部】	
固定資産	3,768,247,792	基本金	265,132,825
建物	1,459,282,673	国庫補助金等特別積立金	852,183,680
土地	132,340,644	その他の積立金	1,955,578,965
その他固定資産	2,176,624,475	次期繰越活動増減差額	949,615,366
		純資産の部合計	4,022,510,836
資産の部合計	4,199,190,130	負債及び純資産の部合計	4,199,190,130

資金収支計算書

(経営活動による収支)		(財務活動による収支)	
経常収入計	2,050,187,576	財務収入計	10,000,000
経常支出計	1,912,872,721	財務支出計	63,000,000
経常活動資金収支差額	137,314,855	財務活動資金収支差額	△53,000,000
(施設整備等による収支)		(当期資金収支差額合計)	
施設整備等収入計	1,595,560	(前期未支払資金残高)	342,370,393
施設整備等支出計	40,256,850	(当期末支払資金残高)	388,023,958
施設整備等資金収支差額	△38,661,290		

児童養護施設れんげ学園は児童福祉法による、虐待や保護者の疾病等の理由で、家族とともに生活することが困難な子どもたちが暮らす施設です。

後援会の皆様には行事等を通して子どもたちの成長を見守っていただいております。

年額3,650円を一口として、会費を納入いただき、上記会計報告のように物品寄贈を行ったり、将来の改築の際の備品購入に備えたりしておりますので、是非ご加入いただきたくお願いいたします。

お申込みはれんげ学園にて承ります。

TEL 042-565-8451 れんげ学園

後援会のおさそい

後援会会員及び寄付者ご芳名

(令和4年1月～令和4年12月*順不同・敬称略)

- | | | |
|-----------|---|-------------------------------------|
| 1 池田 たか子 | 28 廣瀬 実子 | 51 (株)セレモア |
| 2 伊藤 知一 | 29 福丸 由佳 | 52 (株)双蹊 |
| 3 岩品 勝次 | 30 山口 聡・佳津子 | 53 (株)チュチュアンナ |
| 4 梅谷 令子 | 31 山崎米店 桜ヶ丘支店 | 54 (株)フレーベル館 |
| 5 浦川 治美 | 32 山添 一郎・紀子 | 55 (株)マルハン東大和店 |
| 6 岡澤 和花 | 33 吉江 英利 | 56 (株)李蹊 |
| 7 風間 英昭 | 34 吉澤 久美子 | 57 清野運送(有) |
| 8 川鍋 正晴 | 35 涌沢 昌宏 | 58 合資会社 河原商店 |
| 9 川鍋 正義 | 36 (一社)東京馬主協会 | 59 国際ソロプチミスト東大和 |
| 10 川鍋 玲子 | 37 (株)カーテックキヨノ・ベータ | 60 セカンドハーベスト
ジャパン |
| 11 木村 三郎 | 38 (株)協同食品サービス | 61 セレリアンス(株) |
| 12 清野 きち子 | 39 (株)シャリオット
ホールディングス | 62 全国シャンメリー
協同組合 |
| 13 清野 伸子 | 40 (福)幹福祉会
東大和事業所/(特)自立
生活センター東大和 | 63 東京都蒔蒔協同組合 |
| 14 清野 二美子 | 41 (有)キヨノオートサービス | 64 日本鏡餅組合 |
| 15 小嶋 哲夫 | 42 (有)関田牛乳店 | 65 走る電気屋さんハッピー |
| 16 後藤肉店 | 43 (有)大和屋商事 | 66 ひまわり会 |
| 17 小峰 美保子 | 44 JA 東京みどり東大和支店 | 67 毎日新聞東京社会福祉
事業団 |
| 18 柴田 照代 | 45 NX エネルギー関東(株) | 68 (有)THS |
| 19 嶋田 孝司 | 46 朝日新聞社 おしごとはくぶ
つかん編集部 | 69 横田西小学校 |
| 20 高橋 真明 | 47 イトーヨーカドー労働組合
東大和支部 | 70 ハーレークリスマスチャリ
ティーライドご参加の皆様 |
| 21 竹下薬局 | 48 岩田小児科医院 | 71 Amazon 欲しいものリスト
からご寄付下さった皆様 |
| 22 田中 清春 | 49 おおはらや 田中 三喜男 | 72 東大和市社会福祉協議会
を通してご寄付下さった
皆様 |
| 23 田村 暢子 | 50 (株)ウインズ | |
| 24 中山 正雄 | | |
| 25 原田 真由子 | | |
| 26 半澤 一明 | | |
| 27 比留間 タケ | | |

その他、お名前の掲載の許可をいただけていない方及び匿名の方より、合わせて67件のご寄付をいただいております。

れんげ保育園

〒207-0033
東京都東大和市芋窪 3-1615
TEL : 042-565-3342
FAX : 042-533-5611

れんげ上北台保育園

〒207-0032
東京都東大和市蔵敷 3-691-2
TEL : 042-563-3990
FAX : 042-561-5487

れんげ南街保育園

〒207-0014
東京都東大和市南街 4-3-1
TEL : 042-561-2341
FAX : 042-561-2342

れんげ萩山保育園

【本園】〒187-0031
東京都小平市小川東町 4-3-18
TEL : 042-344-1486
FAX : 042-344-1466
【分園】〒187-0031
東京都小平市小川東町 4-3-1
TEL : 042-344-1484

れんげ砂川保育園

〒190-0001
東京都立川市若葉町 4-24-31
TEL : 042-536-5281
FAX : 042-536-5360

れんげ第二桜が丘保育園

〒207-0022
東京都東大和市桜が丘 3-44-32
コーシャハイム玉川上水 3 号棟 103
TEL : 042-516-8155
FAX : 042-569-8398

れんげ桜が丘保育園

〒207-0022
東京都東大和市桜が丘 3-44-18
TEL : 042-567-4381
FAX : 042-590-7014

れんげ武蔵保育園

〒208-0012
東京都武蔵村山市緑が丘 1732-1
TEL : 042-561-3959
FAX : 042-561-3958

児童福祉施設 れんげ学園

〒207-0033
東京都東大和市芋窪 5-1161-3
TEL : 042-565-8451
FAX : 042-563-8078
〈グループケアホーム たんぽぽ〉
〒208-0013
東京都武蔵村山市大南 3-134-8
TEL : 042-516-8835
〈グループホーム なでしこ〉
〒208-0003
東京都武蔵村山市中央 3-23-5
TEL : 042-516-9121



★ご協力いただいている第三者評価のアンケート及び受審の結果はインターネットでご覧になれます (www.fukunavi.or.jp)。
尚、園の詳細については各園のホームページをご覧ください。

毎年、保育活動に貢献した方を、法人全体研修時に表彰しています。

令和4年度 表彰者

れんげ保育園	保育士 (非常勤)	小畑 園恵
れんげ砂川保育園	保育士	伊藤 喜代美
れんげ砂川保育園	保育士	大久保 真里
れんげ萩山保育園	保育士	石川 智美
れんげ南街保育園	保育士	三平 香菜
れんげ武蔵保育園	保育士	田貫 豊美
れんげ上北台保育園	調理師	加藤 美代子
れんげ上北台保育園	保育士	野崎 なお子

● 編集後記 ●

明日も楽しいことであふれている世界。その希望を込めて今年度は「新しい光にむかって」というテーマを掲げ想いを綴ってまいりました。職員一同子どもたちに寄り添い明るい未来にむかっていきます。

【令和4年度広報委員】

れんげ保育園	向田 眞奈美
れんげ砂川保育園	富田 理恵
れんげ萩山保育園	石山 理絵
れんげ桜が丘保育園	鈴木 徳香
れんげ南街保育園	下平 清香
れんげ武蔵保育園	田貫 豊美
れんげ上北台保育園	川里 佳世